

「浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学文学部 2 年 小笠原 朋子

浙江大学の研修では、平日の午前中は中国語の授業に出席し、それ以外の時間は、主に現地の学生や京都大学のメンバーと行動していました。

中国語の授業は長期の留学生向けに開講されているものであり、私のクラスには他に短期留学生がいなかったので、最初の方は大変不安でした。けれども、参加したのが丁度第 1 回目の授業が始まる時期で、クラスや授業にも入りやすく、また、クラスメートもフレンドリーな人が多かったので、3 日目からは授業を楽しいと思うようになりました。私が参加したクラスでは授業は全て中国語で行われ、先生の話す中国語は日常会話に近い速さでしたが、決して早口ではなく、同じ内容を表現を変えて何度か説明して下さることが多かったので、理解しやすかったです。手元に教科書があり、先生が話す単語と内容が少し想像できる分、普段の中国語の会話よりも聞き取りやすいと感じました。それでも、説明の 2、3 割は分からなかったのですが、分からない箇所は隣の席の友達とお互い質問して解決していました。

授業以外の時間は、浙江大学の他のキャンパスや西湖の周り、蘇州、上海など様々な場所に出かけることができました。各地の風物は新鮮で、ただ歩いているだけでも多くの発見がありました。けれどもそれ以上に、現地の学生とお互いの言語や文化について質問しあったのは良い体験でした。中国のことについて話すのももちろん新しく知ることが多く面白いですが、日本のことについて尋ねられるときも、日本語や日本文化のよくよく考えると不思議なところに気が付くことができ面白かったです。今は、インターネットなどで膨大な量の情報に触れることのできる時代ですが、やはりそれだけでは足りない部分があると思います。現地の学生との交流を通して、将来何らかの形で、お互いの国に対して関心を持つ人が新しいことを知る手伝いできればよいなと思いました。

今回の研修は、以上のように新しく学べたことも多く楽しいものでしたが、今後の課題とすべきこともあります。とりわけ大きな課題はやはり中国語です。研修期間を通して外出の際の計画や、伝達、案内などで現地の学生や、京大のメンバーの段さんにかかり負担をかけてしまいました。日本語でももっと積極的に手伝うことができたのではないかとも思いますが、やはりもう少し中国語ができれば役に立てたかもしれないのと思う場面が少なくなかったです。また、中国語で会話していても、意味を把握するのに必死で、ネイティブが普段の会話で使う言い回しを学ぶことがなかなかできなかったのは残念でした。次に中国に行くのがいつになるかは分かりませんが、言い回しを勉強する余裕があるくらいリスニングの力を伸ばすのが次回までの目標です。

我有困难的时候，中国和日本学生以外很多人帮助我。我不知道我应该买哪个练习帐的时，韩国同学跟我一起去超市告诉我哪个是应该买的。我迷路时，热情的人告诉我怎么回浙大。我很感谢她们。